

2. 基調講演要旨

「地域での地震・津波災害への対応と防災教育」

今村 文彦 東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター 教授

- ・人間は自身の限られた経験と知識によって判断する「偏見(バイアス)」を持っている(例: ひどい状況にはならないだろう等)。「偏見」による判断(例: 避難の遅れ等)が、被害の原因となっている。「偏見」をできるだけ小さくすることが重要。
- ・「偏見」は「学ぶ」ことで取り去ることができる。「防災教育」がいかに大切であるか。
- ・防災教育は「生きる」ことを「学ぶ」こと。さらに「驚き」・「納得」・「気付き」・「思いやり」を知ることが重要である。
- ・「1983年日本海中部地震津波」、「2004年インド洋津波」の実態紹介。津波などの二次的災害は、予防システム、注意を喚起するものによって防ぐこともできる。
- ・「2008年岩手・宮城内陸地震」による土石流による二次的災害で被害が出ている。知識を持っていれば、未然に被害を防ぐことができたかもしれない。
- ・学校は防災文化継承の場であり、地域防災の拠点。宮城県では、生涯にわたって防災に詳しい知識を持てる社会人育成を目指している。
- ・防災教育は学校単独ではなく、地域との連携や地域と学校の協働が必要。